

刊夕日十三月五



定価 一部全紙一ヶ月五拾五圓 郵費五圓
廣告料五拾五圓 印刷費五拾五圓
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐寺日新聞社
社址 常磐寺日新聞社
電話 六二〇〇
印刷所 常磐寺日新聞社
印刷機 常磐寺日新聞社

臺家と日蓮宗

真繼 雲山

法華經は古來一切經中の王といはれる。固よりその宗派々々によつて正依の經典に異同はあるけれども、法華經十六の如來壽量品を口誦しないのは一部の淨土門だけである。それとても法華經を否定し無視する意味はなく、たゞ儀式として用ひないだけである。その他の聖道門諸宗にあつては、大抵の儀式に壽量品は口誦される。枕經でも、納骨經でも、壽量品が主體となる場合が多い。逝ける人へ前にして壽量品が稱へられる時、それは尊い感じがあらう。壽量品が暗誦できないやうでは坊さんの役目は勤まらない。何ゆゑ、そんなに法華經が尊いのか、或る人がこれを經中の王なりと聞き、これを讀破すれば、大悟徹底、佛様の有り難味が分るものと思ひ、和譯法華經を求め來つて一心不亂に通讀してみたら一向、何等の感銘も信心も起らず、文字は讀めるが、その意味さへ分らなかつたと私に告白して來たことがある。この尊いお經を讀んで譯が分からぬといふのは下地がないからである、畑がなくては芽は生へない。下地のない

人は當節にも甚だ多い。法華經を正依の經典として立つ宗派に、天臺宗と日蓮宗とがある。天臺宗は支那智者大師が天臺山で開かれたから、その名があり、これを傳へて、日本の天臺宗を開かれたのが傳教大師である。日蓮宗は御承知の通り、日蓮上人の開宗である。同じ法華經を中心としながら何ゆゑ二つの宗派に別れてゐるかといふことは學問的にはいろいろの區別もあらうが、枝末の理論は兎に角とし、その成り立ちの根本が異なる。

先づ天臺宗は、禪密戒をはじめ、その他の各宗を網羅して、これを領域とし、諸宗を我がものに收めて、その上に天臺宗を築かうとした。その結果叡山は宛然然合大學たるの觀を呈し傳教大師の滅後には廂を貸して、母家を取られるの形となり慈覺智證出で密教化し安然出で禪風に満ち慧心僧都出でとうとう念佛の山たるに至つた。その他法然も、親鸞も、天臺の山に育ち叡山を下つて別に一宗を開創したのは鶏のふところからあひるの孵化した觀がある。これは天臺の包擁性と寛宏さがさうした結果を生んだのである、左れば今にいたりて天臺宗は觀音藥師信

文藝 募 集

進まれた。一本槍たるの結果は當然他宗の折伏となり遂には念佛無間、禪天魔、眞言亡國、律國賊の四箇格言にまで進んで行つた。

今一つ兩者の重要な相違点はひとしく法華經を正依として眺めはするが、天臺宗はこれを机上の學問として散亂の心を止め慧明をその内から見出ださうとするに對し、日蓮宗は色讀とあつて肉身で讀む即ち法華經こそ生ける佛なれ、これを肉身で體驗する我れこそ佛なれといふ一體不二の信仰が二宗の大きな岐れ目であつたと思はれるのである。

(完)

貸切の●●●
御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ
マツサキ
眞先ニ……………(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

度量衡
モノサシ
マ ス
ハカリ
器量計
体温器
寒暖計

關内藥局
電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

外科 醫學博士 渡部 義夫
小兒科 女 醫 渡部 きい子
内科
平町田町大通リ(電話二七七番)
入院應需 渡部 外科

鹽豚
肉蒲鉾
田町 三三三三屋

七
八せん
魚食堂
電話二二三番

魚食堂
電話二二三番

木炭代用この上のない經濟の
徳用な 豆 炭

壹袋正五貫目入金 八十錢也
御注文次第御届ケ申シマス
三丁目(電話六六三番) 磐崎屋 酒店
一丁目(電話五九六番) 菅本武雄 商店
白銀町(電話二九九番) 水野 氷 店
六丁目 矢吹石炭商店
平野前(電話三七七番) 阿部石炭商店

特約店募集致シマス

吉田眼科病院
平野前町 電話六八番

農業倉庫の合理化

石城農業倉庫聯合會設立

初代の會長に青沼氏當選

共販は八倉庫が一齊に開始

石城郡農會では郡下各村の農業倉庫を統一して産米相場及び品質の向上を計る爲め現在農業倉庫を經營しつゝある平、大浦、江名、草野、平窪、泉、渡邊、勿來の八信用組合當事者其他三十餘名は昨廿九日午前十時より平農業倉庫に集集協議の結果前記八信用組合を一丸とした石城農業倉庫聯合會の設立を見、會長には青沼鋒太郎、世話役酒井専次氏等が選任され新聯合會の共同販賣は八農業倉庫一齊

郡下

統計主任會

來月三日間開催

郡下各町村統計主任會は來月八、九、十の三日間平町團體事務所樓上に於いて開かれ學事及び一般産業統計の外今回は特に産米の生産統計をも行ふと

兩校の選手決定

濱三郡 中等校 剣道大會迫る

磐中、平商共に必勝を期し猛練習中

磐城中學校及び平商業學校劍道部にては來る六月十八日午前十時より双葉中學校講堂に於て濱三郡中等校剣道大會が開かれるので目下必勝を期し各係教練指導の下に練習中であるが兩校の出場選手は左の如くである
(磐中)和田弘尚 草野寅光 作山友三 大平浩
山形阜 小林一允 三浦辰雄(平商)山田定 甲

尋常科一年

研究科開催

平第一、第二、第三各小學校尋常科第一學年の同學年研究會は本日午前八時より第一小學校に於て開かれたが決議事項は左の如くである

- 催する事
- 一、三校同學年の圖書手工展覽會を催す事
- 一、縣内の優良小學校の視察に一校一名宛出張して同學年會に報告する事
- 一、保護者會よりの給與品は三校一定して給與する事
- 一、兒童讀物として繪本類を保護者より購入して教室に備ふる事

川部村でも

公設質屋設置計畫

小農救濟機關として

農林省に資金貸付申請

石城郡川部村では一般小農家連の金融機關として何等纏つたものがなく非常な不便を感じて居るので村有志では公益質屋を設置すべく此が事業資金として一萬二千五百圓の貸付方を縣を経て大藏省に申請した

後藤検事來平

地方裁判所後藤検事は本日午前十時三十三分着にて來平平區裁判所の巡視を行つたが午後六時半よりは住吉屋本店に於て法曹團主催の下に開かれた觀迎會に出席した

豚コノ豫防注射

卅一、二日の二日間 既報平町豚コノ豫防注射

草野村々議

昨日當選

石城郡草野村では二十九日村議政選を行つた結果左の如く當選した

八五	渡邊 善吾
同	豊田西太郎
七三	渡邊三之助
七〇	粥塚富一郎
同	星野金之丞
六五	芳賀 元治

勿來青年團總會

石城郡勿來町第一青年團春期總會は去る廿八日午前十時より同町小學校に開會退園功勞者の感謝狀送贈、役員改選等の後陸軍大尉矢野充二氏の滿洲事變に關する講演があつた

農林政務次官

來月日三來平

本縣經濟更生の實施成績及び狀況視察の爲め來月三日來縣する織田農林政務次官は四日午後三時五十三分磐越線下り列車にて來平視察を行ふ筈である

磐炭競技部

福島に遠征

石城郡内郷村磐炭礦陸上競技部員は來月八九の兩日福島市に遠征して八日は福島高商、九日は師範の二チームと對抗競技を行ふ事になつた

川前産組總會

郡川前村産業組合總會は昨廿九日午後一時より同村小學校に開會産業五ヶ年擴張計畫案實施に就いての協議を行つた

小學校長會

昨日出席五十餘名
既報郡下小學校長會は昨日午前十時より平第一小學校に於て開かれたが出席者は五十六名にて種々協議打合せをなした

平町人事

- 神谷の二毛作品評會 石城郡神谷村農會主催二毛作品評會は明廿一日行はれるが參加者四百餘の多數に及んで盛會を豫想されて居る
- 回出生
 - △久保町二三 諏訪喜一氏
 - △四女智子
 - △手摺一四 佐藤捨次郎
 - △氏長女智加子
 - △禰宜町八 芳賀徳次郎氏
 - △五男重則
- 回婚姻
 - △田村郡中郷村字元内一一 八宗形俊一氏(二八)長橋町一七今宮カヨ(二八)
 - △千葉縣長生村水上村字大津倉八五五 鹿間金光氏(三四)紺屋町一〇鈴木セツ(二六)
- 回死亡
 - △堤ノ内一七 當時東京市目黒區上目黒八丁目四五 二 小松誠志(四ツ)

市原醫院

平町田町 電話一四四番

三井タクシ

電話五六八番

たひら正宗

山崎合名會社 電話一〇番

美味!

芳醇!

二旬に亘る町議戦

愈々今日幕を閉づ

最高位は關内候補が吉村候補

當落判明今夜十時半頃

二旬に亘つて血みどろな戦ひを演じて来た平町議戦も愈々幕を閉じて今日勝敗を決する投票日を迎へた、ゴールをめがけて突進して来た三十七戦士の中果して誰れに誰れが落伍の憂目を見る事であらうか、それは今夜十時半頃に於て大體決定される譯である、今日午前中各方面よりたらされた名候補者の情勢を拾つて見ると百八十以上二百に近い得票をもつて第一位か第二位を争ふのは二町目の關内候補が研町の吉村候補で次

赤組一番槍は

一町目の飯田氏

定刻前既に有権者群がる

今日の三十七戦士審判の日を待つて投票一番槍の名乗りを揚ぐべく前夜来より手具脛引いて待つてゐた有権者の人々は午前五時半と云ふのに既に十指を数へ入口附近に群がつて物凄く程であつたが午前六時開場と共にわれこそはと目度一番槍をものしたのが赤入口飯田近治氏白入口が太原平重

棄権は

案外少ない

正午迄の投票は 二千五百 入場券配布数四千五十九名

は第三位から第五位にあるものは酒井清、馬目雅治、坂本隆藏、高橋龜松氏等と見られ、第五位から十位にあるものは多田井笑次郎、石山治三郎、根本品藏、馬目武之助、佐々木龍若氏等々其の次は得票に大差なくして九十票以上百十票内外で當選するものと傳へられており落選組は六十票程度で貧乏籤を引く模様であるが然し舊議員の落選を見るが如き意外の番狂はせはおそらくないではないかといはさされておる

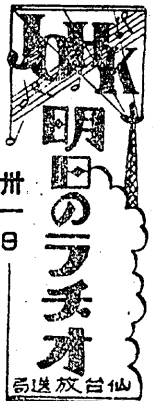
耕地整理組合長と

農林主事補が結託

縣補助金八千圓を横領

有罪と決定公判に附さる

双葉郡富岡町大字毛萱字前川原二十八番地佐藤徳右衛門(五)に對する詐欺事件及び平町十五丁目六番地元本縣農林主事補木村安三郎に對する公文書毀棄公印不正使用事件はいづれも過般來平支部に於て荒井判事係りの下に豫審中の處本日有罪と決定公判に廻付されたので近日中島裁判長係りの下に開廷される事になつたが事件の内容は被告佐藤は富岡町毛萱下郡山耕地整理組合長の處昭和五年五月大水害の爲め同地区内の留池が欠潰し約六丁歩の田地が埋没したので之が復舊工事に際し縣より補助金の交付



今夜は北西の風晴 明日は北東の風晴 雲半す

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) 童話劇「なんでも食べよう」仙臺市木町通り小學校児童
後七、三〇 講演「河村瑞軒の残した足跡」竹越與三郎
後八、〇〇 義太夫「碁太

平記白石噺(田植の段) 竹本佳照
後八、三〇 小唄一、つくく、と 外五曲唄 岩井さく、三味線 岩井よし
後八、四五 連續浪花節 「澤村淀五郎苦心の判官」(第二席) 廣澤虎吉

明日の部

後九、三〇 時報、ニュース、氣象通報、番組豫告
前二、〇〇、三〇 家庭講座 「臺所ノートから」 河内拾松
後二、〇〇 五滿洲より
後二、〇〇 婦人講座 「歌の正しさうたひ方」(十八) 鈴木信子 酒田市
施行記念放送の時間
後四、二〇 講演中里酒田市長
後四、三五 講演山口山居

倉庫長
後五、〇〇 講談旭堂南慶
後五、三五 民謡酒田藝奴運
後六、〇〇 子供の時間 「唱歌」酒田市内各小學校児童
後七、三〇 浪花節
「栗田口の仇討」妻川歌燕
後八、〇〇 萩江節
「八島」萩江壽々子其他
後八、二〇 ラヂオ風景 「趣味いろ／＼新緑漫景」 柳永二郎其他
選定中であると

に於て關口判事係り小林檢事立會安齊、山野邊、武田各辯護士列席の下に開廷されたが事實取調の結果來る六月十日富岡警察署渡邊部長外七名の證人取調を行ふ事になつた

駒場將校應召 平商業學校配屬將校駒場謙氏は

懲役一年以上

三年以下を求刑

言渡しは明三十一日

既報石城郡内郷村大字高坂字中平十七番地四家辰吉七番地四家辰吉(一)及び同所十三番地鈴木數夫(二)いづれも假名一の兩名が去る十七日綴驛事務室より乗車券を窃取した外十四件の窃盜を働いた事件の公判は本日午前十時より平區裁判所に於て竹内判事係り小林檢事立會の下に開廷され事實取調の上檢事より「兩名は不良少年で親にも見切りをつけられて居る始末で晝間遊で夜窃盜を働くと云ふ大膽さには驚くより他はない、眞に將來恐るべき少年である」とて少年法に依り懲役一年以上三年以下を求刑されたが言渡しは來る三十一日午前九時である

飯野苗代講習

石城郡飯野村農會では來る二日午後一時より同村小學校に於て苗代の植付に關する實地講習會を行ふので講師と

- △豆腐賣子 三十以下 尋卒 賣上の二割(平町某)
- △女中 二十以下 尋卒 給料面談(平町某)
- △自動車運轉手 十八才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △紙箱製造見習 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △回職を求める方
- △事務員 十九才 高卒 給料面談(泉村某)
- △炊事婦 四十才 尋卒 給料面談(秋田縣某)
- △雜夫 三十七才 尋卒 給料面談(茨城縣某)
- △齋職 二十五才 尋二修 給料面談(好間村某)

既報双葉郡木戸村矢内忘夫(三)外十四名に對する暴力行為事件の第一回公判は本日午前九時より平區裁判所

公判開廷

次回は十月十日

既報双葉郡木戸村矢内忘夫(三)外十四名に對する暴力行為事件の第一回公判は本日午前九時より平區裁判所

常盤新報

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫
上田馬之助

第三百五十一號

鳥の毛爪の鋭き
上田馬之助は佐藤大學
青山庄司 前田勘之助の三
人に對ひ

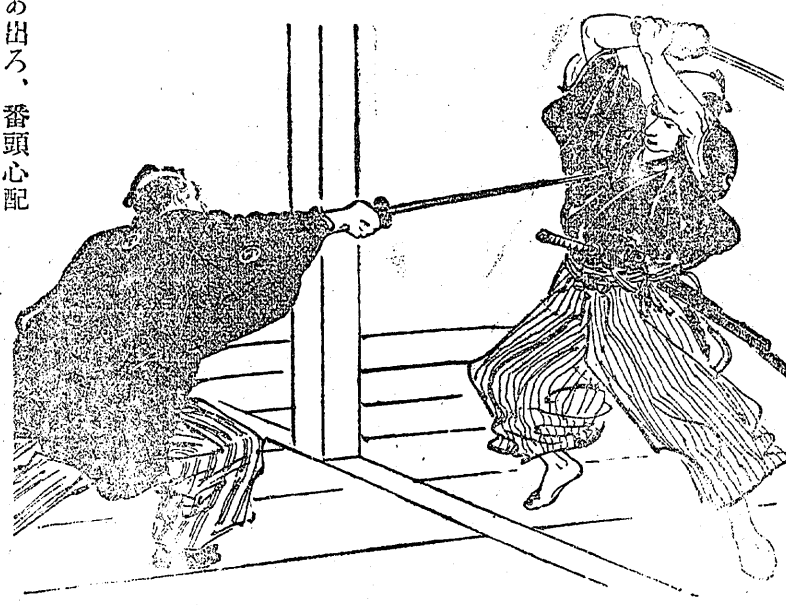
馬「望みとあらば勝負して
遣はず、しかし各々には何
等の宿意もない、殊にお互
に主に仕へ居る者私の争に
てイヤ何等の理由もなく死
生を争ふは何と馬鹿げたこ
とではないか、喧嘩は何時
でも出来る一旦血を流して
これを浄めることは困難だ
どうだ四人打揃つて品川ま
でも押し出し「夜愉快をい
たしそれを縁に未永く交り
互に武道を勵みたいと思ふ
が何うだ」

大「點れ甘言を以て此の危
急を遅れんとは卑怯千萬、
さア抜け、但し我々に及ば
ぬとあらば大小を捨てそれ
に平伏助命を乞へ」

上田はこれを知くとアハ
……と笑ひ

馬「さうか、それ程迄に我
が命に愛想が盡きたとあら
ば入用でもないが其の命は
貰つてやる、しかし此處で
勝負をいたすこととはなら
ぬ」

大「然らば孰れに參る」
馬「表へ出て妨げの不入
場所を見立て悠々貴様達の



命を取つてやる」
大「云ふた此奴、其の高言
は我々を斬捨てた後に申
せ」
馬「ウム然うか、生きて居
る中に申し聞ければ貴様た
ちの爲にもなると思つたが

付ケ上がり無法のみ申し居
る、そこで賣られた喧嘩を
血を以て買ふことにした、
それ出る表へ」
大「逃げるな、此奴」
と佐藤大學が第一番に表
梯子の中段まで下りた、見
るより佐藤大學は逃げる
思ひ、待てと云ひつゝト
とかけおける處をエツ
と叫んだ馬之助は早くが
が脇腹を斜めに斬つた、ア
ツと云つた大學はドン
と音を立て、轉び
おちた、此の時に上田は肩
から腰へかけて血を浴びた
此時青山庄司が、汝れ此奴

前田勘之助が盟友の敵覺悟
しろと振りかぶつて進み寄
るを上田は前に柱を置いて
其の後に來て、刀を取り直
して正眼につけた、多勢を
相手にするならば後へ廻る
を防ぐ爲に柱を楯にいたす
が敵は一人です、それ故柱
を……にして構へた。この事
は細川侯の家來であつた片
桐徳藏氏より私が聞いた事
です、前田勘之助はこの三
人の中では劍術はよく出來
る、上段に振り冠つて一打
に致さんと上田をデツと見
たが前の柱が邪魔になる、
それが爲めに斬り込むこと
が出来ない、此時馬之助は
エツ、バツと突きを入れた
上田は突きが得意です、前
田は身を交はさうとしたが
何にいたせ大酔いたし居る
それ故防ぐことが出來ない
胸元をズバリ刺されてウ
ムと云つたが左の手で傷口
をビタリと押へ、ト
と後へ退つて刀の切先
を疊へ突きたて、ウムと
うめきながら上田を見詰
めた、其時押へてゐる傷口か
ら噴き出す血潮、それが手
を染めてバツバツと滴る、
馬「何うだ、鳥の毛爪の鋭
き事が判つたか」
云はれて前田が
と申したさうです、これ
程の傷を負ふて居ながら此
れ丈の事を申すは此奴も強
膽者です、刀を杖にしてヒ
ヨロ／＼よろめきながら梯
子段を下り様としたが二三

さあ出る、番頭心配
するな此處で血を見る様
に致さぬ」
番「それは有難いことでご
ざいます、しかし旦那、喧
嘩をするのは野暮でござい
ます」
馬「ウム野暮とは知つて居
るが此馬鹿者共はいよ／＼

とこれも梯子へ左の足をか
けて下り様とした處バツと
飛び上つた馬之助はキツと
斬り付けた、バチーンと青
山は受けたが小手が下がつ
て頭を割り付けられた、バ
ツクリ二つになつてバツタ
リ倒れた、これを見るより

段おけるとドタ／＼と
落ちた
前「コレ若い者、丸の内の
邸まで駕籠を三挺頼んでく
れ」
と云つたが松田の若い者
は慄えました

御用命は印刷物の
常盤新報印刷株式會社
電話六三〇番

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南七
電一〇七

夏の學生服
野も山も新緑です……
輕快な霜降洋服が澤山
揃ひました
どうぞ御用意下さい。
小學生用……¥.40
同(特製品)……¥1.20
中學生用……¥2.05
ふかや洋服店 平電 三 203

外花柳科専門
木村外科醫院
自炊入院の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九
中村齒科醫院
平町鍛冶町七

お醬油は……ヤマフル
醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部二階造工場三〇)
明治生命鑄城代理店 山崎與三郎